

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

インド、インフレ率高止まりで追加利上げ懸念 (Asia Weekly (5/16~5/20))

～東南アジアは内・外需の堅調で景気は底堅く推移～

発表日: 2011年5月23日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

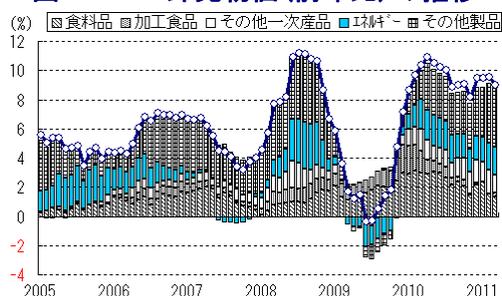
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/16 (月)	(シンガポール) 4月非石油輸出 (前年比)	▲1.8%	+7.9%	+9.9%
	(前月比/季調済)	▲3.6%	+2.6%	▲3.0%
	(フィリピン) 3月海外労働者送金 (前年比)	+4.1%	-	+6.2%
	(インド) 4月卸売物価 (前年比)	+8.66%	+8.50%	+9.10%
5/18 (水)	(マレーシア) 4月消費者物価 (前年比)	+3.2%	+3.1%	+3.0%
	1-3月期実質 GDP (前年比)	+4.6%	+4.9%	+4.8%
5/19 (木)	(シンガポール) 1-3月期実質 GDP (前年比)	+8.3%	+8.3%	+12.0%
	(前期比年率/季調済)	+22.5%	+22.0%	+3.9%
	(香港) 4月失業率 (季調済)	3.5%	3.3%	3.4%
	(台湾) 1-3月期実質 GDP (前年比)	+6.55%	+6.20%	+7.13%
5/20 (金)	(台湾) 4月輸出受注 (前年比)	+10.14%	+14.65%	+13.37%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インド] ～インフレ率は鈍化するも、前月比での上昇ペースは加速。追加引き締めの可能性は燃る～

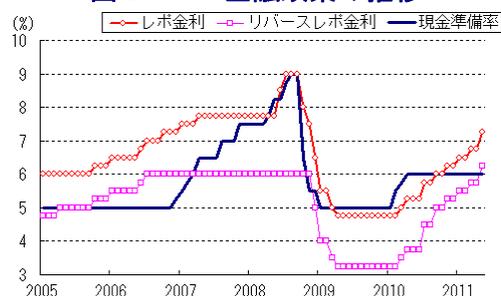
16日に発表された4月の卸売物価は前年同月比+8.66%となり、前月(同+9.10%)から減速した。ただし、前月比は+1.35%と前月(同+0.34%)から上昇ペースが加速している。前月まで2ヶ月連続で下落してきた食料品価格のほか、原油市況の高騰でエネルギー価格も上昇しており、工業品価格も上昇ペースが加速するなど裾野の広い物価上昇が続いている。金融当局は今年3月の定例会合において政策金利(レポ金利・リバースレポ金利)の引き上げを決定し、引き上げ幅は市場予想を上回る50bpとするなど、金融引き締めを強めている。当局は会合後の会見において「目先の経済成長が悪影響を受けたとしても、インフレ抑制を優先する」との考えを示しており、追加引き締めの可能性は高いであろう。

図1 IN 卸売物価(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 IN 金融政策の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア] ～1-3月期の成長率は減速するも依然堅調。物価上昇圧力は続いている～

18日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+3.2%となり、前月(同+3.0%)から加速した。前月比も+0.2%と前月(同+0.1%)から上昇ペースが加速しており、食料品価格やエネルギー価格の上昇のほか、景気の堅調を反映してサービス価格も上昇が続いており、コア物価も加速している。一方、海外資金の流入に

よるリンギ高は輸入物価を抑制しており、物価上昇圧力を緩和している。金融当局は、今月5日の定例会合において5回ぶりの利上げを決定して過剰流動性の抑制を図っており、今後も追加引き締めが実施される可能性はあろう。

同日に発表された1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+4.6%と、前期(同+4.8%)から減速した。当研究所が試算した季節調整値ベースでも、前期比年率+7.1%と前期(同+9.8%)から減速したものの、依然高い伸びが続いている。物価上昇圧力の高まりにも拘らず、資源価格の高騰による交易条件の改善で国民所得は増加しており、雇用改善も追い風に個人消費は拡大。世界経済の回復により輸出も増加している。全産業とも生産は拡大しているが、特に化学関連の生産拡大を背景に、製造業は前期比二桁の伸びとなっている。

図3 MY 消費者物価(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 MY 為替相場(対米ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 MY 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 MY 実質GDP成長率(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 MY 実質輸出の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 MY 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ～1-3月期の景気は加速するも、4月の輸出鈍化は大震災の影響も～

16日に発表された4月の非石油輸出額は前年同月比▲1.8%と、18ヶ月ぶりのマイナスとなった。前月比も▲3.6%と前月(同▲3.0%)から2ヶ月続いて減少しており、東日本大震災の影響もあり電気機械関連の出荷が減少している。石油製品を含む総輸出額も前年同月比+5.0%と前月(同+12.7%)から減速しており、前月比も▲2.2%と前月(同+2.2%)から減少に転じている。また、4月の輸入額も前年同月比+4.5%と前月(同+17.2%)から減速しており、前月比も▲6.4%と大幅に増加した前月(同+17.6%)の反動が出た。結果、貿易収支は+44.41億SGドルと前月(+37.20億SGドル)から黒字幅が拡大した。

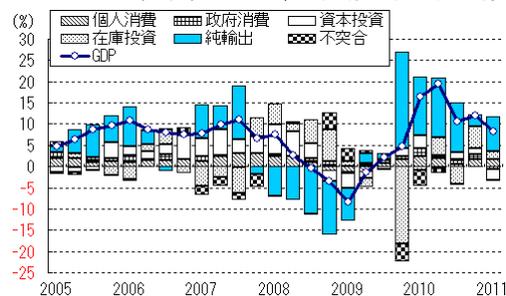
19日に発表された1-3月期の実質GDP成長率（改定値）は前年同月比+8.3%となり、先月発表された速報値（同+8.5%）から▲0.2p下方修正された。前期比年率も+22.5%と速報値（同+23.5%）から▲1.0p下方修正されたが、これは3月実績が速報値の前提を下回ったためである。しかし、雇用の改善や海外資金の流入などで個人消費の拡大は続いており、世界経済の回復を背景に輸出の増加トレンドが崩れる可能性も低いと思われる。

図9 SG 輸出入(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図10 SG 実質 GDP 成長率(前年比)の推移



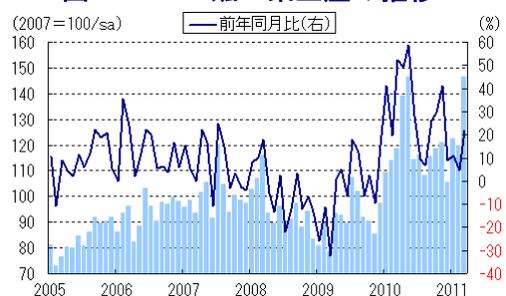
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図11 SG 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図12 SG 鉱工業生産の推移



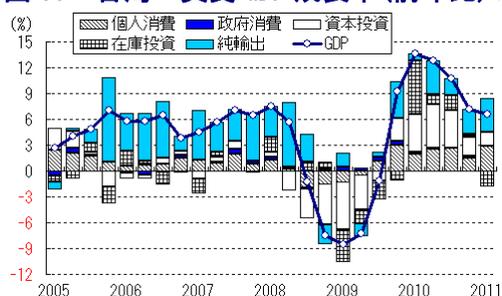
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【台湾】 ～1-3月期は内・外需をけん引役に景気は堅調。輸出の先行きに減速の兆しも～

19日に発表された1-3月期の実質GDP成長率（改定値）は前年同期比+6.55%となり、速報値（同+6.19%）から+0.36p上方修正された。前期比年率も+18.97%と速報値（+13.44%）から上方修正されており、前期（同+1.18%）から大幅に加速した。雇用の改善や中国本土などからの資金流入による過剰流動性が内需を押し上げ、生産拡大を背景に設備投資も大幅に加速。さらに、海外経済の回復を受けて輸出も増加しており、内・外需ともに景気をけん引している。なお、東日本大震災による部材調達問題による在庫の積み上げも景気の押し上げ要因となっている。

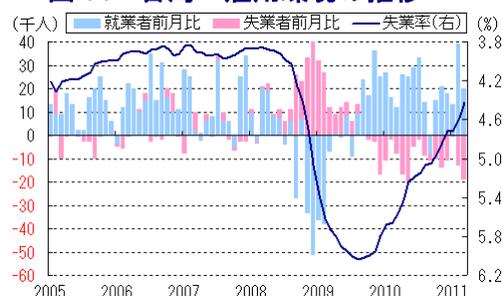
一方、20日に発表された4月の輸出受注は前年同月比+10.14%となり、前月（同+13.37%）から減速した。前月比も2ヶ月ぶりに減少に転じており、堅調に推移してきた電気機械関連の減少が全体を下押ししている。地域別ではアフリカを除くすべての地域向けに減少に転じており、今年1月に大半の輸出品目で関税が撤廃されて輸出拡大が期待されてきた中国本土向けは、4ヶ月連続の前月比マイナスとなっている。東日本大震災によるサプライチェーンの寸断は代替需要を取り込む機会となるだろうが、足元の受注状況からは今後の輸出は鈍化する可能性もあろう。

図13 台湾 実質 GDP 成長率(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図14 台湾 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図15 台湾 小売売上高の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図16 台湾 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図17 台湾 輸出受注の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上